

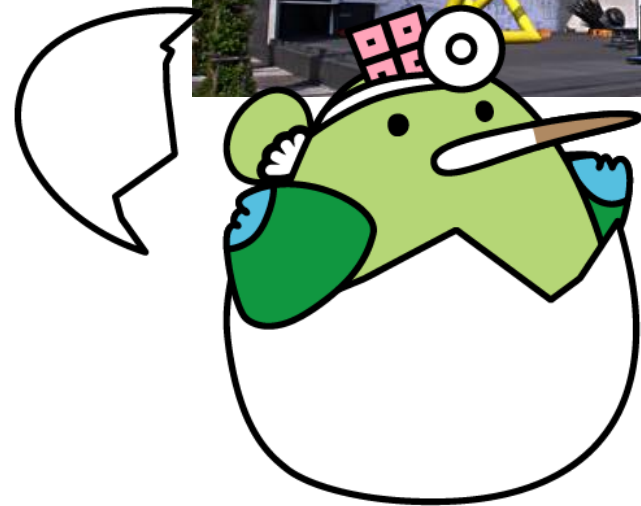


KAGAWA ROSAI HOSPITAL

令和9年度採用初期臨床研修医 募集案内



独立行政法人
労働者健康安全機構
香川労災病院



香川労災病院臨床研修に関する理念・基本方針

当院は厚生労働省指定の基幹型臨床研修病院であり、以下の理念・基本方針に基づき臨床研修を実施しています。

[理念]

- 1 高い倫理観と豊かな人間性を備え、患者・家族・地域住民に信頼される責任感と向上心を併せ持つ医師の育成 心のかよったやさしい医療を行える医師の育成
- 2 高度な医療機能の活用と医師に要求される基本的臨床能力の修得を目指す

[基本方針]

- 1 医療全般にわたる広い視野と高い見識を持てる
医学、医療の全般にわたる広い視野と高い見識を持ち、臨床に必要なプライマリ・ケアの基本的診察能力を習得させる。また、質の高い医療ができるよう生涯を通じて教育・学習を続ける態度と習慣を有し、高度な医療技術の習得に努める。
- 2 チーム医療ができる
医療の現場において自己の限界を認識し、他の専門職との連携、チーム医療の実践に必要な連携構築を行うことができる。
- 3 患者の立場に立った医療を実践できる
患者から人間としても信頼される思いやりの心をもった医療人となり、地域住民の信頼を得られる医師を育成する。
- 4 地域医療に貢献できる
地域医療に関心を持ち、健康の保持、疾病の予防から社会復帰に至る医療全般の責任を有することを自覚し行動する。
- 5 勤労者医療を理解する
勤労者医療に対する理解を深め、実践する能力を身につける。

病院紹介

当院は国が開設する厚生労働省所管の病院であり、香川県中讃地域の中核病院として、①地域医療連携(地域医療支援病院・へき地医療拠点病院)、②救急医療、③地域がん診療連携拠点病院、④勤労者医療の4つの重要な機能を担っています。

①地域医療支援病院として、顔の見える地域連携を推進し、紹介率93.4%、逆紹介率116.1%(R7年度)と、患者さんに身近な地域で質の高い医療を受けていただくことを実践しています。

②第一次から第二次救急患者まで幅広く受入れており、香川県内からの救急車搬送受入件数は3,590件(R7年度)であり、県内トップクラスです。なお、救急棟を増築し、2013年4月より稼働しました。

③地域がん診療連携拠点病院として医療安全に配慮した「化学療法レジメン対応型電子クリティカルパス」を整備しています。令和5年度より、がん診療棟が稼働し、地域のがん診療の中核的役割を果たしています。

④勤労者医療としては、アスベスト疾患センターを有しています。

救急棟について

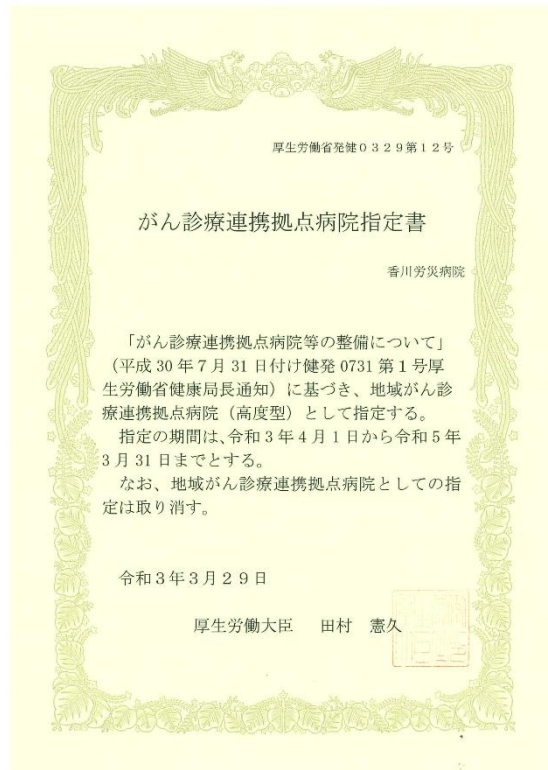
救急棟は、3階建床延べ面積4430㎡の建物です。1階は救急外来を設置し、既存の200㎡から540㎡に拡充し、トリアージスペースを新たに設置しました。2階には化学療法室を設置し、既存の10床から20床へ拡充しました。また3階は、救急病床を10床増床し、ICUが6床から8床に増床、HCU8床を新設しました。

病院概要について

病院長 : 藤原 俊義
住所 : 〒763-8502
香川県丸亀市城東町三丁目3番1号
TEL : 0877-23-3111
FAX : 0877-24-1147
交通手段 : JR丸亀駅(予讃線)から
バス10分・タクシー5分・徒歩20分
病床数 : 404床(ICU8床、HCU8床を含む)
診療科 : 19診療科
その他 : 日本病院機能評価機構認定病院
地域医療支援病院
地域がん診療連携拠点病院
へき地医療支援病院
脳死臓器提供病院
臨床研修病院 救急告示病院
災害拠点病院 DPC対象病院
電子カルテ導入
卒後臨床研修評価機構認定病院



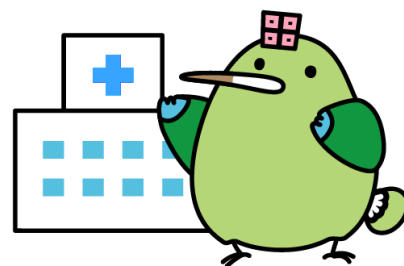
令和3年度より地域がん診療連携拠点病院(高度型)に指定されました。



その後の制度改正により、「高度型」の分類は無くなりましたが、がん治療に関して高度な実力を持つ病院であるとして認定されています。

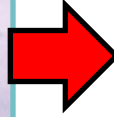


令和5年度より、がん診療棟が稼働しています！



救急棟・がん診療棟を増築しました！

以前の外観



救急棟・がん診療棟建設後の外観



救急棟外観



当直室



化学療法室



ICU



診療概要

■診療科別医師数

(令和8年4月1日時点)

診療科名	内	循	外	整	形	脳	泌	産	眼	耳	放診	放治	麻	救	病理	計
医師数	19	5	11	9	3	5	3	4	2	3	6	2	8	1	2	83
臨床研修 指導医数	10	2	10	6	1	2	2	2	1	1	3	2	6	1	2	51
病床数	120	35	65	58	3	54	20	26	3	20						404

初期臨床 研修医数	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8
1年次	0	4	0	2	5	1	0	2	0	3	0	4	6	6	5	6
2年次	0	0	4	0	2	5	1	1	3	1	3	0	4	6	6	5
計	0	4	4	2	7	6	1	3	3	4	3	4	10	12	11	11

主な出身大学 岡山大学、久留米大学、香川大学、川崎医科大学、島根大学、岩手医科大学
日本大学、産業医科大学、大分大学、熊本大学 等

■診療の特色

- ①最新・高度な労災医療(高圧治療施設、振動障害センター、アスベスト疾患センターの設置)
- ②救命救急医療(ICU8床を設置しており、24時間体制での救命救急医療を実施)
- ③地域医療支援病院(医師会との連携協定や地域連携バスの推進等)
- ④地域がん診療連携拠点病院(高度型)(がん疾患の集学的な治療等)
- ⑤職業性疾病の予防活動(積極的な健診活動並びに職業性疾病の早期発見や予防活動を実施)

■診療実績(令和7年度)

1日平均患者数	【入院】302.5人 【外来】960.0人
平均在院日数	12.3日
救急医療の提供	【医療計画上の位置づけ】二次 【救急専用診察室の有無】有(540㎡) 【救急医療を行う診療科】全科
救急医療の実績	【救急搬送患者数】3,590名(累計) 9.8名/日 【一日平均救急患者数】17.9名 【心肺停止状態搬送数】33名
分娩数	61件
剖検数	3件

■医療設備・機器(主なもの)

医療設備	ICU(8床)、HCU(8床)、手術室(8室)、透析室(14床)等
医療機器	MRI撮影装置(1.5T) 2台、全身用CT撮影装置(320列 1台、64列 1台)、 シングルフォトエミッション、CT(SPECT)、乳房撮影装置、体外衝撃結石破碎装置、 心臓血管撮影装置、心臓・頭部・腹部・四肢血管撮影装置、ガンマカメラ、 デジタルX線TV撮影装置、リニアック、骨塩定量測定装置、超音波断層装置、 高気圧酸素治療器、ナビゲーションシステム 低侵襲手術支援ロボット

研修概要

■病院データ

病院番号	030669
指定基準	基幹型
プログラム名	香川労災病院卒後臨床研修プログラム
プログラム責任者	守都 敏晃
評価方法	EPOC2

■プログラムの特徴

1. 1年目は必修科目の内科24週、救急16週、外科・産婦人科・小児科・精神科4週となり、同時期に重ならないように配慮します。「臨床研修の到達目標(厚生労働省)」の全てを達成できるように調整します。
2. 2年目に必修科として地域医療4週、その他は選択必修の期間を10カ月設けることで、将来の選択肢を幅広く考えることができるように配慮しています。選択科目については必修科目・選択必修科目の研修終了前に研修医の希望を確認のうえ調整します。

一年次	必修					
	24週間	12週間	4週間	4週間	4週間	4週間
	内科	救急	外科	産婦人科	小児科	精神科

二年次	必修		選択科			
	4週間	4週間	残期間			
	地域医療	救急	選択科より選択			

* 選択科：内、循、外、整、形、脳、泌、産婦、眼、耳、放、リハ、検（病理）、麻・救急

* 協力病院

精神科：医療法人社団中和会 西紋病院 小児科：国立病院機構四国こどもとおとなの医療センター

地域医療：小豆島中央病院・さぬき市民病院・綾川町国民健康保険陶病院 から選択

研修医処遇

身分	常勤嘱託医
給与	【1年次】月額 360,000円 【2年次】月額 380,000円 ※上記に加えて、時間外手当等の実績給を支給します。賞与はないが、一時金として、 【1年次】年額 約126,000円 【2年次】年額 約168,000円 の支給実績あり。
勤務時間・休日	月～金 8:30～17:15 【休日】土日祝祭日、年次有給休暇(12日)、夏季特別休暇、 年末年始(12/29～1/3)、冠婚葬祭特別休暇、健康と福祉の事業創設記念日
社会保険等	【医療保険】組合健康保険 【年金保険】厚生年金、厚生年金基金 【雇用保険】有り 【労災保険】有り 【医師賠償責任保険】病院自体で加入(個人での加入は任意)
宿舎	【間取り】1K 【宿舎費】月額 約12,000円 【駐車場】有り(2,000円/月) 各部屋1台 【距離】病院まで徒歩1-2分 【その他】他に世帯用もあり 宿舎入居者希望者で、入居できない場合は当院で借り上げします。 (宿舎費は労働者健康安全機構の規定による)

平成29年度より研修医宿舎が新しくなりました！！



病院南出口より、徒歩約10秒の近さ

①病院南出口よりスタート！



②道路を渡って



③左を向いたら



④宿舎に着きました！



自由性の高い2年次のプログラムです！（参考：当院研修医）

①様々な診療科を研修するパターン

研修医 ①	4週	2週	2週	4週	8週	4週	6週	4週	6週	6週	6週
	整形外科	リハ科	病理	外科	放射線診断科	地域医療	血液内科	耳鼻咽喉科	循環器内科	脳神経外科	研修しつつ決定

②一つの診療科(消化器内科)を中心に研修するパターン

研修医 ②	4週	8週	4週	4週	4週	4週	4週	6週	4週	4週	6週
	消化器内科	放射線診断科	消化器内科	地域医療	麻酔科	消化器内科	血液内科	消化器内科	リハ科	麻酔科	放射線診断科

③内科系・外科系両方を中心に研修するパターン

研修医 ③	6週	6週	4週	6週	8週	8週	6週	6週
	呼吸器内科	消化器内科	地域医療	耳鼻咽喉科	腎臓内科	外科	放射線診断科	血液内科

地域医療の研修先

小豆島中央病院（香川県小豆島）



さぬき市民病院（香川県さぬき市）



地域医療の研修先

綾川町国民健康保険 陶病院（香川県綾歌郡）



各診療科の初期研修医早朝講義をご紹介します！

早朝講義スケジュール(一例)

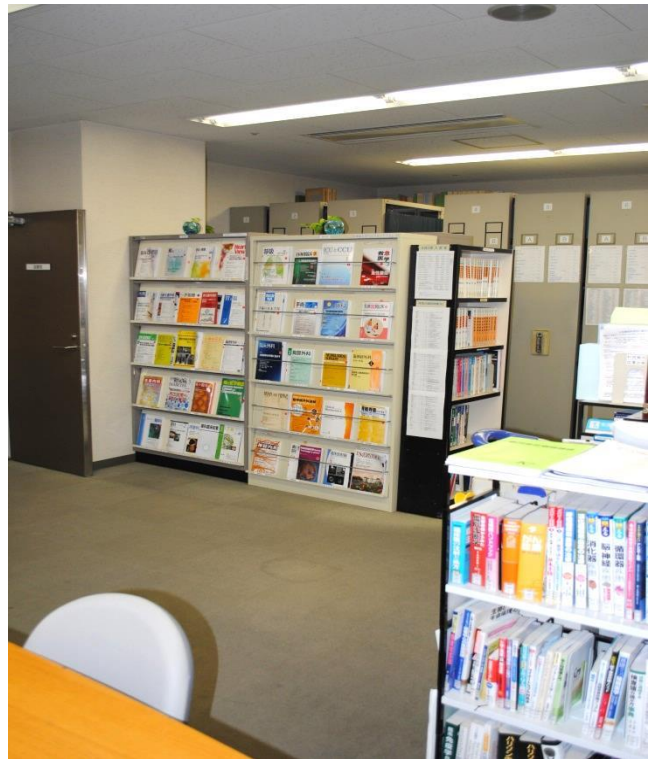
毎週1回8:00~8:30で開催

1	救急・麻酔科	急変時対応とRRS
2	救急・麻酔科	急性期の輸液療法
3	救急・麻酔科	人工呼吸管理
4	内科	栄養管理について
5	内科	腎機能の評価について
6	内科	糖尿病について
7	内科	イレウスについて
8	内科	ピロリ感染について
9	整形外科	外傷患者を診る際の注意点
10	整形外科	上肢の外傷
11	整形外科	外来でよくみる整形外傷およびスポーツ外傷
12	整形外科	救急外来における脊椎疾患
13	循環器内科	心電図の基本
14	循環器内科	救急での初期対応
15	眼科	眼科救急ガイド
16	脳神経外科	脳卒中(脳梗塞)
17	脳神経外科	脳卒中(SAH、脳出血)
18	脳神経外科	頭部外傷
19	脳神経外科	脊髄・脊椎疾患
20	検査科	臨床検査について
21	病理診断科	病理診断医と上手く付き合うコツ
22	放射線診断科	救急のCT①
23	放射線診断科	救急のCT②
24	産婦人科	妊産婦の画像検査と安全性・妊娠と薬
25	放射線治療科	放射線治療の説明
26	形成外科	形成外科概論
27	形成外科	形成外科領域における外傷
28	形成外科	熱傷
29	外科	急性虫垂炎の外科的治療
30	外科	胆嚢結石 急性胆嚢炎の外科的治療
31	外科	胃がんの外科的治療
32	外科	大腸がんの外科的治療
33	外科	肝胆膵手術の術前評価
34	外科	胸腔ドレナージ
35	耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科の救急疾患
36	泌尿器科	泌尿器科の救急疾患

研修医デスク



図書室



休憩スペース

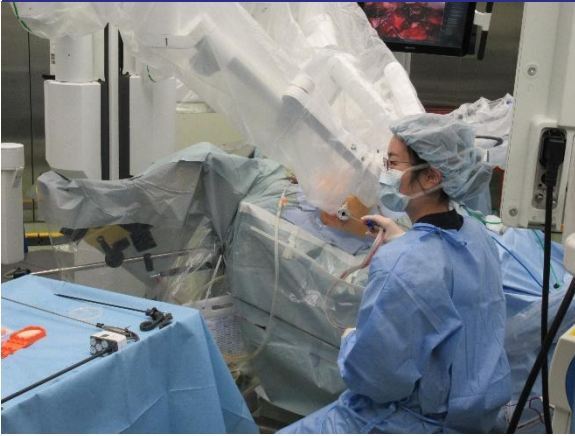


カンファレンスルーム



研修の光景

手術支援ロボットについて学ぶ研修医



予防接種の練習を行う研修医



麻酔を行う研修医



手術を行う研修医



電子カルテの研修



オリエンテーションでの採血



診療科の案内

内科

循環器内科

外科

産婦人科

脳神経外科

整形外科

リハビリテーション科

形成外科

耳鼻咽喉科・頭頸部外科

泌尿器科

眼科

放射線診断科・放射線治療科

検査・病理科

麻酔科 救急・集中治療部



診療科の紹介

内科には消化器内科、呼吸器内科、腎臓/代謝内科、血液内科の4つのグループがあります。複数の疾患を抱えている患者さんには、各グループが協力し、他科の応援も受け診療にあたっています。

毎週火曜日に抄読会を、また、毎週水曜日には内科カンファレンスを行い、新規入院症例を全員で検討しています。

研修施設の認定は、内科学会、呼吸器病学会、血液病学会、消化器病学会、消化器内視鏡学会、臨床腫瘍学会、腎臓病学会、透析医学会、糖尿病学会などから受けています。

症例について

当院は香川県中讃地域(対象、約30万人)における2次救急を担っています。救急外来では、心臓疾患、脳血管疾患、急性呼吸不全、吐・下血といった救急症例の初期対応を経験できます。また、糖尿病、急性肺炎、胆石症、貧血症などのcommon diseaseも症例数が多く、1次から2次にかけて多彩な疾患を経験することができます。

研修内容

- 医師として基本的な知識・技術・マナーを学ぶ
- 病歴、理学的所見の取り方
- 検査データの読み方
- 電子カルテを使ったカルテの記載法
- 多職種と連携し、患者さんの社会的背景も考慮した治療アプローチ
- 他職種とのコミュニケーション、コンサルテーションの仕方
- 各救急症例の初期対応
- 上部・下部消化管ならびに肝・胆・膵疾患へのインターベンション
- 感染症の診断と抗菌薬による治療法
- アレルギー疾患の診断と治療
- 悪性腫瘍の診断と治療方針の決定
- 急性呼吸不全の呼吸管理
- 糖尿病治療
- 慢性腎不全に対する透析導入や管理
- 内分泌疾患の捉え方
- 血液疾患の見方、考え方
- 医学英語(外国人教師指導)の習得
- 学会発表などプレゼンテーションの仕方
- 内科救急トレーニング(JMECC)
- 緩和ケアについて

特殊検査	2021年度
気管支鏡	157
上部消化管内視鏡	4,630
ERCP	312
内視鏡的粘膜下層剥離術	24
下部消化管内視鏡	2,097
骨髄穿刺	191
腎生検	21
抗ガン剤治療	2,859
肺癌(入院症例)	327
血液疾患(入院症例)	213
血液透析(のべ件数)	2,267



当院で習得できる基本的手技

- 輸液、輸血管理、血糖コントロール
- 内科疾患の画像所見の見方
- 血液ガス分析
- 腹部エコー
- 上部・下部消化管内視鏡
- 気管支鏡
- 胸腔穿刺、胸腔ドレナージ
- 腹水穿刺
- 骨髄穿刺
- 腎生検
- 抗生剤や抗がん剤処方の実際
- 中心静脈カテーテルや透析用カテーテル留置
- 酸素療法、各種人工呼吸器の使い分け



内科での研修を志望される方へ

初期研修では、専門(上級)医の指導の下に、数多くの症例を経験し、正しい診断・治療過程を理解することが大切です。当院での救急を含めた内科症例の経験は、きっと未来のあなたの医師人生の基盤となり、症例の重症度に応じた診断、治療を冷静に行うことができるようになるでしょう。まずは当院の見学に来てください。いつでもお待ちしております。



循環器内科

診療科の紹介

循環器科内科医は、2026年4月現在5名で、そのうち3名が循環器学会専門医、1名が心血管インターベンション学会専門医で構成されています。また日本循環器病学会認定循環器専門医研修施設の指定を受けています。

研修内容

循環器内科医として基本的な知識・技術を習得し、診断、治療へと結びつけます。

当院で習得できる基本的手技

心電図、負荷心電図、トレッドミル負荷心電図
ホルター心電図、イベントレコーダー、Heart Note、植え込み型心電計
冠動脈CT、心筋シンチ検査、心臓MRI、心エコー検査、経食道心エコー検査、ABI、SRPP、
下肢動脈エコー、心臓カテーテル検査および治療、末梢動脈疾患に対するカテーテル検査
および治療

手術名	2022	2023	2024	2025
心臓カテーテル検査	695	830	638	526
PCI件数	272	215	278	268
EVT件数	74	56	49	32
ペースメーカー植え込み術 (新規植え込み+電池交換)	60	73	73	54
心エコー検査	4,089	4,253	3,313	2,851

循環器内科での研修を志望される方へ

すべての検査治療において、まず助手として経験し、術者として経験を積むよう指導致します。



外科

診療科の紹介

・ 外科では腹腔鏡や胸腔鏡下手術、ダビンチ手術など患者さんにやさしい低侵襲手術や進行がんに対する高難度手術や集学的治療など幅広い診療を行っています。初期研修では指導医とともに患者さんを担当していただきます。患者のニーズに応えるべく包括的全人的な外科診療を理解し、外科の基本的な知識、技能、態度について研修していただきます。

・ 当院は外科学会、消化器外科学会、呼吸器外科学会、乳がん学会、食道学会、肝胆膵外科学会、内視鏡外科学会などの専門医や指導医などが在籍し、研修施設の認定を受けており外科専門医や各臓器領域のサブスペシャリティが取得できる高水準の外科治療・教育を行っています。また、当科では学術活動やチーム医療、緩和医療などを通して医師としての技術・人格を高めることを目標としています。

症例について

○がんの手術件数(2023)国立がん研究センター「がん情報サービス」より抜粋

当院は香川県西部医療圏のがん診療連携拠点病院として食道、胃、大腸、肝臓、胆道、膵臓、乳腺、甲状腺、肺などの悪性疾患を多数治療しています。また、地域の中核病院として、急性虫垂炎、胆石、鼠径ヘルニア、消化管穿孔などの良性疾患や急性疾患も多数治療しています。各種がんに対する術前治療を含む集学的治療や緩和ケアなど幅広い疾患や救急疾患を研修可能です。

肺がん(香川県)		
	施設名	件数
1	A病院	169
2	B病院	104
3	C病院	90
4	香川労災病院	34
5	D病院	19

胃がん(香川県)		
	施設名	件数
1	A病院	63
2	香川労災病院	49
3	B病院	41
4	C病院	28
5	D病院	24

大腸がん(香川県)		
	施設名	件数
1	A病院	152
2	香川労災病院	127
3	B病院	73
4	C病院	62
5	D病院	52

乳がん(香川県)		
	施設名	件数
1	A病院	162
2	香川労災病院	86
3	B病院	83
4	C病院	63
5	D病院	42

○外科手術件数

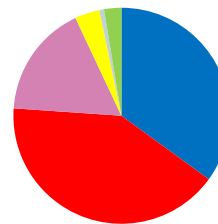
2022年外科手術数

領域	手術数	内視鏡手術
食道	17	11
胃	52	35
小腸	10	
大腸	176	147
ヘルニア	124	31
その他腹部	77	25
肝臓	17	4
膵臓	23	1
胆道	146	132
肺 縦郭	63	62
乳腺・甲状腺	146	
小血管	17	
小手術	218	
NCD登録数	1086	448
ロボット手術胃 8例		直腸22例

○当院におけるがんの化学療法件数(2025)

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
内科	204	165	184	175	201	189	227	210	210	220	193	191
外科	186	148	186	191	157	175	166	161	170	175	165	181
産婦	102	73	90	66	72	77	82	91	84	100	85	66
泌尿	39	30	30	47	42	44	35	33	27	32	25	22
耳鼻	7	9	10	14	13	14	8	13	16	13	9	9
脳外	1	1	1	2	3	4	5	2	1	2	0	1
整形	8	6	7	8	8	7	6	8	7	10	9	9

診療科別割合



- 内科
- 外科
- 産婦人科
- 泌尿器科
- 耳鼻科
- 脳外

研修内容

各種カンファレンス(術前後カンファレンス、ビデオカンファレンス、カンサーボード)などを通して、診断治療方針の決定にチームの一員として参加します。病棟診療、救急外来で腹部救急疾患の診断や全身麻酔症例の術前評価も指導医と行います。緊急手術も含めた手術にはできるだけ入っていただき、外科の基本的な技術をできるだけ習得していただきます。可能なかぎり縫合など基本の手技は行っていただいています。できるだけ研究会や学会に参加していただき、学びの姿勢をつけていただきます。

当科で習得できる基本的手技など

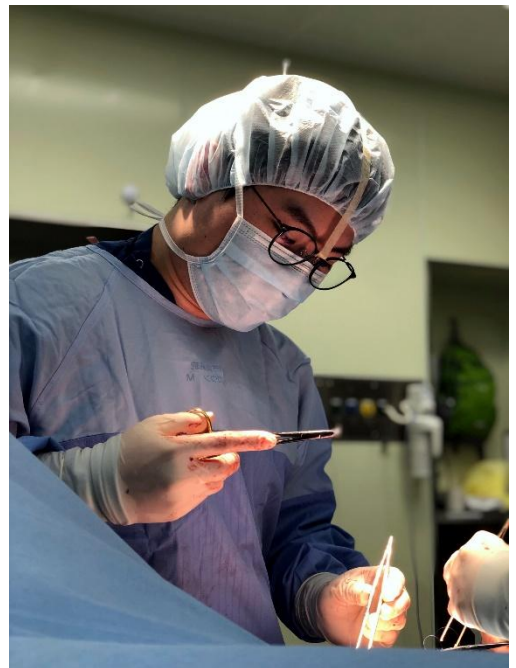
局所麻酔、皮下・皮膚縫合、糸の結紮、外来小手術・処置、腹腔・胸腔ドレナージ、上部内視鏡
超音波検査、外科的患者の診察(病歴聴取、理学的所見)、患者とのコミュニケーション
検査データや画像データの読み方、急性虫垂炎、胆嚢結石症など基本的な外科疾患の手術適応の理解
5大がん(胃癌、大腸癌、乳がん、肺癌、肝臓がん)の術前評価の理解
症例プレゼンテーション技術、標準的手術の周術期管理、チーム医療



救急外来にて 初期研修医2名 後期研修医1名



執刀する後期研修の先生



執刀する初期研修の先生

外科での研修を志望される方へ

豊富な症例があり、疾患も多種です。短期間ですが、外科志望でなくても全身を診られる良い医師になるお手伝いをします。緩和ケアや化学療法などのチーム医療・他科との合同手術や院内連携・緊急手術やがん連携などの地域連携などの経験も可能です。

外科医を志す方へ

是非選択科として研修してください。当科の2022年のNational Clinical Database：NCD登録外科手術総数は1,086件と豊富な症例があり、腹腔鏡下胆嚢摘出術、腹腔鏡下虫垂切除術、ヘルニア根治術などの良性疾患も非常に多く、初期選択研修中に多数執刀することも可能です。高度な手術については、基本的な手術手技の習得し、助手や術者の経験を積めるよう研修してもらいます。外科専門医や各種サブスペシャリティーに対応します。

『気軽に外科と一緒に患者さんを診て手術に参加しましょう。当科の研修は外科医にならなくても良い医師になるのに必ず役に立つはずですよ。お待ちしております。』

産婦人科

診療科の紹介

当科は香川県西部地区の産婦人科基幹病院として、救急疾患症例を含め、近隣施設より幅広く紹介を受け入れています。産婦人科医は他科兼務も含め現在4名(専従3名)で、4名が産婦人科専門医です。(うち婦人科腫瘍専門医1名、がん治療認定医2名、母体保護法指定医2名、放射線治療専門医1名)

症例について

右記のように、婦人科腫瘍を主として、産科手術も含め、幅広い手術症例を扱っています。良性腫瘍は腹腔鏡や子宮鏡での手術を、さらに悪性腫瘍に対する手術も力を入れています。分娩件数は2025年は73件でした。快適で安全な妊娠出産をしていただけるように日々心がけています。

研修内容

外来は子宮癌検診と胎児超音波検査から研修を始め、手術や分娩は指導医の介助、助手から経験を積み、徐々にできる事を増やしてスキルアップしていけるように丁寧に指導します。

当院で習得できる基本的手技

良性腫瘍手術や産科手術の執刀または助手、婦人科悪性腫瘍の助手を務めます。子宮癌検診、婦人科や胎児の超音波検査が独力で行えるようになります。正常分娩を独力で取り扱えるようになります。

希望があれば、産婦人科専門医、母体保護法指定医、がん治療認定医の資格取得のための研修も行えます。

産婦人科での研修を志望される方へ

産婦人科は医師の絶対数が少ないため、医師一人あたりの症例数は非常に多く、貴重な症例を多数経験できる環境に現在あります。将来産婦人科志望で研修される方はもちろん大歓迎ですが、前期研修の選択科の一つとして、産婦人科を選択されて、研修される方も歓迎いたしますので、どうぞおいで下さい。

主な手術名	2025
子宮及び付属器悪性腫瘍手術	54
子宮全摘術(開腹)	24
子宮全摘術(腹腔鏡)	41
子宮付属器腫瘍摘出術(開腹)	8
子宮付属器腫瘍摘出術(腹腔鏡)	45
骨盤臓器脱手術(子宮全摘 / 膣壁形成 / 膣閉鎖等)	5
子宮頸部円錐切除術、レーザー蒸散術	39
子宮鏡手術	11
帝王切開	17
その他	21
総数	265



脳神経外科

診療科の紹介

2025年4月現在、日本脳神経外科学会専門医である3名のスタッフ、医師1名、専攻医1名の計5名で診療をおこなっています。脳卒中、脳腫瘍、外傷、脊椎脊髄疾患、末梢神経疾患など広範囲の疾患に対応が可能であり、特に脳卒中に関しては中讃地区で中核的役割を担っており、緊急手術なども積極的にを行っています。

症例について

年間350例近くの手術を行っています。日本脳卒中学会専門医を3名、脳卒中の外科技術指導医を1名、日本脳神経血管内治療学会専門医を1名、日本脊髄外科学会指導医を1名取得しており、各分野で経験豊富なスタッフの指導のもとに手術を行っています。またナビゲーション、モニタリングシステムなどの手術関連機器も積極的に更新するよう勤めています。

研修内容

まずは神経学的診断法、CT、MRIの読影法、脳血管造影、腰椎穿刺など脳神経外科医として基本的な知識や技術を身につけることを目指します。

また、神経外傷、脳卒中などの救急患者の対応ができることを目指します。更に後述の基本的な手技の習得とともにその術前後管理ができることを目指します。

当院で習得できる基本的な手技

- 皮膚、皮下の縫合など基本的な手術手技
- 急性水頭症に対する脳室ドレナージ
- 慢性硬膜下血腫に対する穿頭洗浄術
- 急性硬膜下血腫、硬膜外血腫など緊急開頭血腫除去術
- 脳内出血に対する顕微鏡下血腫除去術
- 脳動脈瘤クリッピング術(助手)
- 頸部、腰部脊髄管狭窄症、手根管症候群など脊椎脊髄、末梢神経疾患の診断と基本的な手術手技

脳神経外科での研修を志望される方へ

中讃地区の多くの医療施設からご紹介をいただき、中四国でも有数の症例数を経験できます。

将来的に何科に進むにしても、脳神経外科で研修することは必ず役に立つと思います。

チームワーク抜群の香川労災病院脳神経外科と一緒に頑張りましょう。

手術名	2025
脳腫瘍摘出術	25
脳動脈瘤クリッピング術	14
頸動脈血栓内膜剥離術	11
慢性硬膜下血腫	49
脊椎脊髄末梢神経手術	104
血管内手術総数	39
脳動脈瘤コイル塞栓術	14
頸動脈ステント術	4
総数	306



整形外科

診療科の紹介

整形外科は筋骨格系疾患を扱い、主に四肢骨折などの外傷、膝関節痛などの関節疾患、腰痛などの脊椎疾患、手や手指のマイクロサージェリーを必要とする疾患や外傷を分担して行っていますが、最近では膝の半月板損傷や靭帯損傷など、スポーツ外傷も増えています。整形外科医は10名在籍しており、そのうち8名が日本整形外科学会専門医の資格を持っています。後期研修は4ヵ月ごとに各分野をローテートして研修ができる体制になっています。また、初期研修医の方も短期間で十分な研修ができるよう対応します。

当科の特徴

当科の手術件数は年間1,100-1,200件程度で、2025年は1,253件でした。内容は下表の通りで、そのうち約半数が外傷や脊椎疾患に対する緊急手術となっています。毎日全員で治療方針に関するカンファレンスを行っており、手術適応や手術方法を検討しています。当院では人工関節手術にナビゲーションシステムを使用しており、人工関節のより正確な設置に努めています。また最近では膝関節に対するロボット手術も導入しています。他にも骨折治療や脊椎疾患、手外科、スポーツ外傷などの各分野に精通した指導医が在籍しており、若手のドクターが基本的事項を学べるように抄読会やミニレクチャーなどを適宜開催しています。

研修内容

- ◆ 整形外科医としての基本的な知識・技術を身につけることを目的とします。
- ◆ 骨折などの外傷について基本から学ぶことができます。
- ◆ X線、CT、MRIなどの画像診断で注意すべきポイントも指導します。
- ◆ 脊髄造影・筋電図などの諸検査を実践します。
- ◆ 術前術後の全身管理についても、麻酔科など他科と協力して研修します。



指導医とともに前腕骨折に対する手術を行う初期研修医

当院で習得できる基本的手技

- ◆ 創傷治療(縫合など)の基本手技
- ◆ 骨折・脱臼の整復法(ギプス治療)
- ◆ 骨折治療の理論と内固定法の実際
- ◆ 神経学的診察法
- ◆ 脊髄造影の手技
- ◆ 脊椎手術
- ◆ 絞扼性神経障害の診断・治療
- ◆ 関節疾患の診察法
- ◆ 人工関節手術
- ◆ 関節鏡を用いた手術

() 件数は人工関節数

	2023	2024	2025
外傷	418	386	482
関節(人工関節)	236(200)	249(224)	267(247)
脊椎脊髄	109	132	140
手の外科	150	163	174
腫瘍	22	26	17
関節鏡	104	165	159
その他	40	28	14
総手術件数	1,079	1,149	1,253

整形外科での研修を志望される方へ

当科は上記のように幅広い領域の症例が豊富であるため、充実した研修が可能です。専門医資格を持った経験豊富な指導医が分かりやすく指導します。外科医として手術手技の習得は必須ですが、当科ではまず助手として実際の手技の基本に触れてもらい、研修後半には基本的手術の術者として執刀できるレベルを目指します。

形成外科

1 診療科の紹介

形成外科・再建外科は、身体の表面・機能・形態に関わる疾患を幅広く診療する診療科です。当科では外傷から高難度の再建手術まで、多様な疾患・手技を経験できることが大きな特徴です。

外傷 裂創・挫創 顔面骨骨折	皮膚・軟部組織 皮膚・軟部腫瘍 悪性腫瘍	瘢痕拘縮 肥厚性瘢痕・ケロイド
難治性創傷 重症虚血肢 褥瘡・難治性潰瘍	再建・組織移植 悪性腫瘍切除後・重度四肢外 傷後の再建	眼瞼・リンパ管疾患 眼瞼下垂 リンパ浮腫

外傷の緊急初期対応から、皮膚腫瘍・眼瞼手術などの待機的手術、さらには組織移植・マイクロサージャリーによる複雑な再建まで、形成外科は治すだけでなく患者さんの生活の質を向上させることを目標とした診療科です。

2 研修内容

当科の研修では、外傷における創処置などの初期対応を中心に、形成外科診療の基本となる手技を段階的に学んでいただきます。裂創・挫創など急性期の創傷や褥瘡などの難治性創傷に対する洗浄・デブリードマン・ドレッシングの選択や、皮膚縫合の基本技術を実際の症例を通じて習得してまいります。

手術においては、指導医の監督のもと、研修医でも執刀できる手術を主執刀として経験していただきます。研修の進度や習熟度に応じて担当範囲を広げ、自立した手技の獲得を目指します。

3 形成外科での研修を志望される方へ

外科系の選択実習期間として選択可能です。当院での研修終了後の各種進路相談はもちろん、初期研修後にそのまま形成外科後期研修に移行も可能です。

どの診療科を専攻する先生にとっても有用な研修となると思いますので、興味があればぜひ研修してください。

診療実績	2025年
新患者数	551
全身麻酔手術	50
局所・伝達麻酔の手術	549
総手術手技数	984

耳鼻咽喉科・頭頸部外科

診療科の紹介

耳鼻咽喉科医は現在3名で、うち1名が耳鼻咽喉科専門医を取得しております。また、当院は日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設の指定を受けています。

当科で扱う疾患は、鼻副鼻腔疾患、頭頸部腫瘍、急性感染症、急性感音難聴、中耳炎、顔面神経麻痺などです。

症例について

鼻副鼻腔疾患、扁桃疾患、頭頸部腫瘍など豊富な症例があり、経験豊かなスタッフが指導します。

研修内容

- ・耳鼻咽喉科医として基本的な知識・技術を身につけることを目的とします。
- ・検査(喉頭ファイバー、エコーなど)
- ・手術(後述)
- ・術前・術後管理

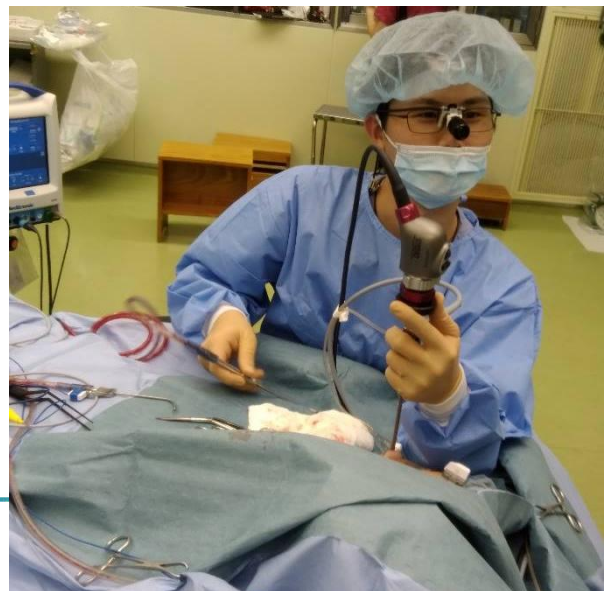
当院で習得できる基本的手技

- ・鼻出血の止血術
- ・咽喉頭の異物除去
- ・皮膚・皮下の縫合手技
- ・扁桃摘出術、アデノイド切除術
- ・鼓膜チュービング術
- ・声帯ポリープ切除術
- ・気管切開術
- ・頸部リンパ節摘出術
- ・鼻中隔矯正術、粘膜下鼻甲介切除術
- ・内視鏡下副鼻腔手術
- ・顎下腺摘出術
- ・頭頸部腫瘍摘出術

耳鼻咽喉科での研修を志望される方へ

症例が豊富であり、まず助手を経験しながら、徐々に術者として経験を積むことができるよう指導します。

手術名	2025
内視鏡下副鼻腔手術 (鼻中隔矯正術)	108 (86)
口蓋扁桃摘出術	87
耳下腺・顎下腺手術	16
気管切開術	15
頸部リンパ節摘出術	7
鼓室形成術	4
鼓膜穿孔閉鎖術	10
喉頭微細手術	5
その他	128



内視鏡下鼻内副鼻腔手術を執刀する後期研修医

泌尿器科

診療科の紹介

泌尿器科医は現在3名で、3名ともに泌尿器科専門医です。また、日本泌尿器科学会専門医教育施設の指定を受けています。当科で扱う疾患は、尿路悪性腫瘍、尿路感染症、尿路結石、排尿障害、泌尿器的腎・尿路疾患などです。

症例について

経験目標項目において必修項目になっている血尿、排尿障害(尿失禁・排尿困難)、悪性腫瘍(腎盂、尿管、膀胱、前立腺等)、尿路結石、尿路感染症等豊富な症例があり、経験豊かなスタッフが指導いたします。

研修内容

泌尿器科医として基本的な知識・技術を身につけることを目的とします。

臨床検査(検尿、尿沈渣)

手術・手技(尿道麻酔、仙骨麻酔、

導尿法膀胱鏡下で尿管カテーテル挿入及び尿管ステント留置、ESWL等)

当院で習得できる基本的手技

膀胱鏡

経直腸的前立腺生検術

膀胱瘻・経皮的腎瘻造設

陰嚢水腫穿刺術

包茎手術

経尿道的手術等

泌尿器科での研修を志望される方へ

症例が豊富であり、しっかりと経験を積むことができます。まずは見学から足を運んでみてはいかがでしょうか。皆さんとお会いできることを心よりお待ちしております。

手術名	2024	2025
副腎摘出(鏡視及び開腹)	3	2
根治的腎摘(鏡視及び開腹)	10	10
膀胱全摘	2	1
前立腺全摘	31	33
TURBT	80	89
TURP	3	8
前立腺生検	193	210
TUL	72	65



指導医の指示の下、ダ・ヴィンチロボット手術支援システム操作に携わる初期研修医

診療科の紹介

眼科は現在常勤医1名、非常勤医1名(いずれも日本眼科学会専門医)で診療しています。当科で扱う疾患は白内障、緑内障、糖尿病網膜症、屈折異常などが主となります。日本眼科学会専門医制度研修施設になっています。

手術について

白内障手術、網膜硝子体手術、緑内障手術を主に行っています。網膜剥離など緊急手術を要する疾患の受け入れも行っています。

研修内容

眼科領域の疾患に対する適切な診断、検査、治療を行うための基本的能力を身につけ、患者の状態が把握でき、初期治療が行えることを目的とした研修となります。

手術名	2024	2025
白内障手術	596	589
網膜硝子体手術	173	149
緑内障手術	43	42

当院で習得できる基本的手技

- 眼科的諸検査(眼底検査、眼底カメラ撮影、眼圧検査、超音波検査、三次元画像解析検査など)
- 眼科理学的検査(対光反射、輻湊反射、眼球運動、視力検査、視野検査など)
- 眼科手術の基礎と手術の助手(レーザー治療、外眼部手術、白内障手術など)
- 眼科基本処置
- 眼科救急疾患の初期治療
- 眼鏡、コンタクトレンズ処方



眼科での研修を志望される方へ

眼科学会専門医の取得をめざし、眼科診療の基礎的知識や手技が習得できるように指導します。



放射線診断科、放射線治療科

診療科の紹介

放射線科は7名の医師で診療を行っています。(放射線診断専門医6名、放射線治療専門医1名) 日本医学放射線学会専門医修練機関、日本核医学会専門医教育病院、日本IVR学会専門医修練機関、日本放射線腫瘍学会認定協力施設の指定を受けています。単純X線撮影装置、マンモグラフィ撮影装置、X線TV装置 2台、CT装置 2台、1.5TMRI装置 2台、血管撮影装置 2台、デジタルガンマカメラ 1台、放射線治療装置 1台、放射線治療用CT装置 1台など最新の診断・治療装置を利用し診療しています。

研修内容

放射線科医として適切な画像診断および放射線治療を行うための基本的知識、能力を身につけ、放射線科および放射線業務についての理解を深めることを目標とします。

画像診断では、CT・MRI・RI検査の読影、診断を行います。検査の方法、造影剤についての知識、検査の適応について学びます。また、消化管造影検査を行い検査手技についての知識を習得します。IVR(Interventional Radiology)では、超音波装置や血管撮影装置を利用した膿瘍ドレナージやPTBD(経皮的胆道ドレナージ術)、肝動脈塞栓術、外傷性出血に対する動脈塞栓術や透析シャント血管の経皮的血管形成術などのIVR手技を行います。IVR手技の方法、適応、注意すべき合併症について学びます。

放射線治療は、定位照射+IGRT、IMRT等の高精度照射をおこなっています。放射線治療の最新の治療法や適応、合併症について学びます。2023年9月から機器更新にて最新の高精度治療が可能になりました。

画像診断、放射線治療はこれからもっともっと進歩するでしょう臨床現場には必要不可欠です。CTやMRI画像の異常所見を指摘し鑑別診断、臨床診断を上げる能力“読影能力”は簡単に習得できるものではありません。限られた研修期間で読影ができるようにはなりません。しかし、各画像診断における正常解剖の確認、異常所見とその成り立ち、common diseaseを中心とした異常所見、救急疾患の異常所見について、実際臨床やteaching filmを利用した研修をおこない、将来、

臨床現場で役に立つ知識が得られるよう研修内容を考えています。放射線科医の仕事は、Doctor's Doctorとしての業務であり非常にやりがいのある分野です。一緒に仕事ができる若いENERGYをお待ちしています。



読影中の初期研修医



CTガイド下生検のシミュレーションを行う後期研修医



放射線治療装置

CT,MRI,RI,IVR件数	2023年	2024年	2025年
CT	25,085	25,285	24,557
MRI	7,677	8,163	7,783
RI	812	1,104	919
IVR	205	175	189
放射線治療件数	2023年	2024年	2025年
総数	268	281	263
定位照射	9	17	19
IMRT	16	63	56

病理診断科(検査科)

診療科の紹介

病理診断科では、全身諸臓器から採取された組織・細胞の検査、剖検を行っています。病理科診断科医師は3名で、全員病理専門医、細胞診専門医であり、厚生労働省認定の死体解剖資格を有しています。また、非常勤医師若干名が勤務しています。当科は日本病理学会認定施設(B)、日本臨床細胞学会認定教育研修施設の指定を受けています。

症例について

香川労災病院では、各診療科が活発な診療を行っており、病理に提出される検体は1年間におおよそ組織診断数4,900件、内術中迅速組織診断230件あり、また細胞診断数は7,400件、剖検3件です。

研修内容

初期研修では、希望の分野(臓器)を中心に、疾患を理解する上で基礎となる病理学的知識や経験を習得します。症例は豊富で、全身諸臓器からまんべんなく提出されるため、病理組織診断全般にわたって経験することができます。

また、初期研修医の皆さんがめざす専門医領域で必要な病理所見や考え方を学ぶことができます。

習得できる基本的手技

組織標本や細胞標本の作製、代表的疾患の肉眼像と組織像、顕微鏡の使い方や観察する際の注意点などです。

病理診断科での研修を志望される方へ

病院における病理診断科は、基礎的な医学と実践的な臨床医学の架け橋のようなものです。学ぶことは多く、毎日勉強の連続ですが、興味を持たれた方は、病理診断業務を経験してみたいはいかがでしょうか。

種別	診療科	2023	2024	2025
組織	内科	1,228	1,275	1,274
	外科	1,367	1,455	1,316
	整形外科	57	60	42
	脳神経外科	63	63	74
	泌尿器科	312	359	391
	産婦人科	794	680	676
	耳鼻咽喉科	434	396	344
	口腔外科	154	156	177
	形成外科	485	566	510
	総数	4,949	5,058	4,866
細胞	内科	545	558	638
	外科	437	320	359
	泌尿器科	1,504	1,479	1,548
	産婦人科	3,422	3,122	2,578
	人間ドック	2,217	2,052	2,076
	総数	8,427	7,805	7,416



麻酔科 救急・集中治療部

診療科の紹介

麻酔科、救急・集中治療部においては、1.手術室での麻酔、2.救急・集中治療での診療の研修を受けることができます。

麻酔科は現在9名で、そのうち3名が日本麻酔科学会認定指導医・日本専門医機構認定麻酔科専門医、4名が日本専門医機構認定麻酔科専門医(その他、集中治療専門医2名、ペインクリニック専門医2名)です。

当院は、日本麻酔科学会認定指導施設、日本集中治療医学会専門医研修施設であり、将来専門医を取得することが可能です。

研修内容

1. 麻酔の研修

当院は香川県中讃地区の地域医療中核病院として位置付けられており、手術件数も非常に多く、令和7年度1年間に約4,600症例の手術が行われております。そのうち麻酔科管理件数は約2,800症例です。手術の麻酔管理を通して、いずれの診療科においても必要な、基本的な生命維持方法(呼吸・循環管理)を修得することができます。研修中には、全身麻酔に必要な気道確保、気管挿管、人工呼吸(人工呼吸器の扱い方)、鎮静法(静脈麻酔)、鎮痛法(硬膜外麻酔、神経ブロック、麻薬など鎮痛剤の扱い)、血圧管理法(観血的動脈圧測定、昇圧剤・降圧剤の使い方)などを徹底的に指導します。



指導医の下、マスク換気を行う初期研修医

2. 救急・集中治療部での研修

前述のように地域の基幹病院であり、令和7年1年間に約3,600名の救急搬送症例を受け入れています。また、集中治療室には、年間約640名の入室があり、さまざまな重症症例の治療を経験することができます。救急部においては各診療科と連携して、多数の救急搬送患者・救急外来受診患者の診療、心肺停止症例の蘇生、外傷患者の診療手順などを修得していただくこととなります。2013年3月より、ICUは6床から8床運用となり、新たにHCUも8床新設され、救急・集中治療部門が一層充実されました。



指導医の下、McGRATHを使用した気管挿管する初期研修医



放射線科とのICU入室症例放射線画像の合同カンファレンス



指導医の下、I Gelで気道確保する初期研修医



指導医の下、脊髄くも膜下麻酔を行う初期研修医



麻酔中のカンファレンスの様子



指導医の下、エコーガイド下でPICC挿入する初期研修医

お伝えしたいこと

院長
藤原 俊義

プログラム責任者
守都 敏晃



これから初期研修を始める若い先生方へのメッセージです

医師としての第一歩を踏み出す初期臨床研修の2年間は、知識や技術を身につけるだけでなく、自ら考え、判断し、患者さんに真摯に向き合う姿勢を培う極めて重要な時期です。現代の医療は、一人の医師だけで完結するものではありません。患者さんを中心に、医師、看護師、薬剤師、メディカルスタッフなど多職種が連携し、それぞれの専門性を生かすことで、より良い医療が実現します。初期研修は、その「チーム医療」の中で、多くの経験を積みながら、自分自身がどのような医師を目指すのかを見つけていく大切な時間でもあります。そして、その過程で出会う指導医や仲間とのつながりは、皆さんの将来にとって大きな財産になるはずですよ。

香川労災病院は、地域の中核病院として、がん診療から救急医療まで幅広い役割を担っており、多彩な症例を経験できる環境があります。約400床という病院規模は、多くの臨床経験を積むことができる一方で、指導医との距離が近く、研修医一人ひとりに丁寧な指導を行うことができる、非常に恵まれた教育環境でもあります。当院では、研修医を単に「教わる存在」としてではなく、医療チームを支える大切な一員として迎えています。日々の診療の中で主体的に考え、挑戦し、時には悩みながらも着実に成長していけるよう、各診療科が連携して皆さんを支えています。診療科の垣根が低く、気軽に相談できる風通しの良さも当院の特徴です。経験豊富な医師から若手医師まで、互いに学び合いながら診療に取り組む文化が根づいており、温かさや活気のある教育体制が整っています。

また、高度な医療機器や充実した診療体制に加え、学会参加や研究活動、他施設との交流も積極的に行われています。日常診療を通して実践的な臨床力を磨くだけでなく、常に新しい知識や視点に触れながら成長できることも、当院の大きな魅力です。

丸亀市は温暖で自然に恵まれた、非常に暮らしやすい地域です。瀬戸大橋を通じて本州方面へのアクセスも良好で、落ち着いた環境の中、安心して研修に専念することができます。

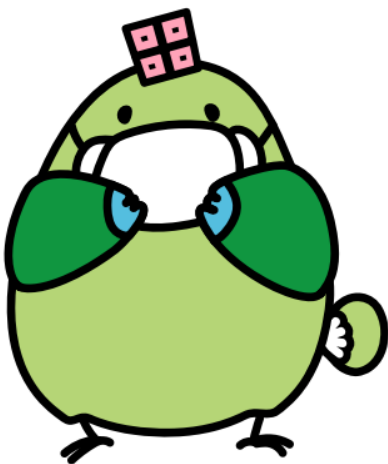
香川労災病院での研修が、皆さんにとって実り多く、将来につながるかけがえのない時間となることを願っています。私たちとともに学び、成長し、充実した研修生活を送りましょう。

ぜひ病院見学にお越しください。

当院は中讃地域(香川県中央部)の中核病院ということもあり、1次から3次救急まで幅広い症例を経験することが出来ます。指導医の先生方の熱心な指導を受けられることに加え、診療科の各科での垣根が低く、珍しい処置や症例があると組織横断的に声をかけていただけることもしばしばあります。

平成25年にオープンした救急棟も順調に稼働しており、県下での救急車の搬入もトップクラスです。院内でも定期的に勉強会が開催され、学会発表や院外の勉強会などにも積極的に参加することができ、2年間の研修で大きな成長を実感できると思います。後期研修では、各科とも新たな専門医制度に対応するプログラムを作成しておりますので、ぜひ一度見学にお越しください。

お待ちしております。



プログラム責任者 守都 敏晃

研修医の声

「学会発表や院外の勉強会などにも積極的に参加させていただき、2年間の研修で大きな成長を実感できることと思います。是非一度見学に来て下さい。お待ちしております。」（研修医）

「丸亀市の中心部に位置する中規模病院であり、多くの科が揃っているながら各科でコンサルしやすい雰囲気です。当院は地域医療の中心的役割を担っており、多くの症例を経験することができます。」（研修医）

「夜間救急には重症・軽症問わず多くの患者さんが来られます。対応中でも、困った際にいつでも相談できる距離に指導医がいてくれるので安心して研修できます。」（研修医）

「医師の連携はもちろん、看護師、薬剤師などコメディカルとの垣根が低くチーム医療を行うのに適した環境で働けることも当院の魅力だと思います。このような環境で日々充実した研修生活を送っています。」（研修医）

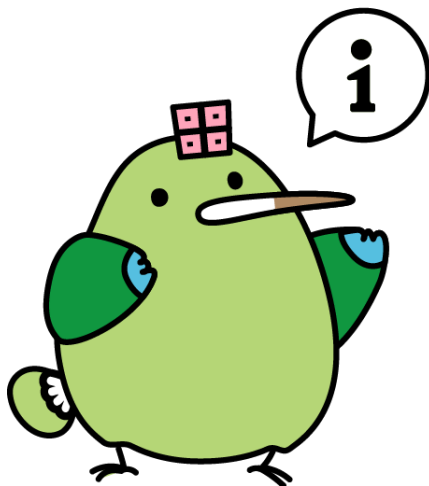
「研修病院を選択するのは確かに難渋する所だと思いますが、この紙面では書ききれない魅力が香川労災病院にはたくさんあります。一度当院に足を運んでいただき、日々の臨床現場を肌で体験していただけたらと思います。」

（研修医）



募集要項

募集定員	6名(予定)
応募資格	①医師免許取得者又は当年度の取得見込者 ②医師臨床研修マッチング参加者IDの取得(見込み)者
応募書類	①申込書(指定様式) ②履歴書(指定様式) ③成績証明書 ④最終学校卒業(見込み)証明書
試験会場	香川労災病院 管理棟3階 会議室
試験日程	随時実施しております。ホームページをご確認ください。 https://www.kagawah.johas.go.jp/intern
応募方法	下記応募先へ、応募書類①～④を送付下さい。 提出期限は、各試験日1週間前必着にてお願いします。
応募・連絡先	〒763-8502 香川県丸亀市城東町3-3-1 独立行政法人労働者健康安全機構 香川労災病院 総務課 藤本・荒木・池田 TEL:0877-23-3111 FAX:0877-24-1147 Email: syomu@kagawah.johas.go.jp URL: https://www.kagawah.johas.go.jp





独立行政法人労働者健康安全機構

香川労災病院

〒763-8502 香川県丸亀市城東町三丁目3番1号

Phone : 0877-23-3111 Fax : 0877-24-1147

e-mail : syomu@kagawah.johas.go.jp

<http://www.kagawah.johas.go.jp>